

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	悪性リンパ腫合併妊娠の多施設共同後方視的観察研究
	研究目的	<p>妊娠中に悪性リンパ腫を発症される方は 6000 妊娠中 1 例といわれています。悪性リンパ腫の治療は抗がん剤治療や放射線治療がメインとなりますが、妊娠女性の治療の場合、赤ちゃんの発育を妨げてしまう可能性があるため、治療の開始時期や治療内容の決定には慎重さを要します。出産まで悪性リンパ腫の治療が延期できればよいのですが、進行のはやいタイプのリンパ腫では、おもうように延期できないこともあります。妊娠中に悪性リンパ腫を発症した患者さんにとって、どのような状況の場合はより早い時期に治療を開始すべきなのか、赤ちゃんへの影響を最小限とし、お母さんの安全を守るにはどういった治療が最適なのかを探ることはとても重要です。</p> <p>本研究では、妊娠中に悪性リンパ腫を発症された患者さんの症状や検査データ、おなかの中の赤ちゃんの発育状況、赤ちゃんの出生時の状況を詳細に調べることで、妊娠中に悪性リンパ腫を発症された患者さんを適切に診療するためのてがかりを見つけ、今後の診療に役立つ情報を社会に還元することを目的としています。</p>
	研究対象者	2000 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日の間に、妊娠中に悪性リンパ腫を発症し、当センターで治療を受けられた 20 歳以上の方または 18 歳以上で既婚者の方です。
	研究期間	西暦 2020 年 5 月 11 日 ~ 西暦 2021 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	血液・腫瘍内科 医長 高橋寛行
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	血液・腫瘍内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 大西千恵